

## 平成30年度 第1回 長野市立博物館協議会 議事録

日 時 平成30年6月20日(水) 午後2時00分～午後3時30分  
場 所 長野市立博物館 1階 教室  
出席委員 立岩会長・宮下副会長・相澤委員・浅倉委員・倉石委員・東福寺委員・二星委員・三井委員

### 1 開会

### 2 あいさつ

### 3 会議事項(議長 立岩会長)

#### (1) 平成29年度事業報告及び平成30年度事業計画

(本館 成田係長、細井係長 戸隠 田辺補佐 信州新町 前澤主査、畠山係長)

(立岩会長)「説明に対し、何か質問は。」

(相澤委員)「最初、館長から昨年度実績についてあったが、頑張っているなと感じた。継続してどうPRをしていくかということがある。昨年『ドキュメンタリー信玄・謙信・・・』などをやってもらい、今年も川中島の関係をつなげてもらっている。館の人は頑張ってもらっているが、地元伝わってこない。地元との連携では、今年は川中島の物語をということなので、またうまくPRしていきたい。」

(千野館長)「地域との連携については、協議にもあるが、こちらからのお願い事項もあるので、ひとつよろしくお願いしたい。」

(立岩会長)「継続して、という点についてはどうか。」

(千野館長)「川中島についてはネタが尽きてきたという感もある。これからの展示について、次回の協議会にて中心議題とさせていただきたい。また、昨年思ったのは、美術館と博物館は少し客層が違う。昨年の冬、土人形の展示を行ったが、美術館の客層に近かった。夏は子ども向けでやっているが、冬は祖父母が連れてくるというのもありえる。新しい客層に気付いた。」

(相澤委員)「今回も隕石など、他の市町村から資料を借りてきている。北信の中でも、ここは重要なところではないか。昨年『結び目』という(館の事業方針と使命の)説明があったが、ここが核になるように、情報発信をしてもよいかな、と思う。」

(三井委員)「一昨年と昨年度で、広報のやり方を変えたのか。」

(千野館長)「昨年うまくいったのは、恐竜の化石の組み立てをテレビ中継してもらったこと。」

市内だけではなく、県内から問い合わせがあった。」

(相澤委員)「組むところからやったのがよかった。」

(千野館長)「新聞社は担当がかわると白紙になってしまうが、今年はとりあげてくれた。」

(立岩会長)「テレビはうまく使うといい。」

(田辺補佐)「恐竜はキラークンテンツ。」

(立岩会長)「全国的に人気か。」

(田辺補佐)「恐竜は最も来る。これで来ないと厳しいというくらい。」

(島田主幹)「ただし、毎年はできない。去年のものは共催で運搬費など費用が抑えられた。」

(倉石委員)「恐竜で子どもがきたのは、博物館の将来的な面でよいが、恐竜は毎年やることはできない。その他でどうやって子どもを呼ぶかが、将来的な博物館の構想にかかわってくるのではないかと思う。そのためには、子どもに来てもらって親も楽しんでもらえるように、タイトルのつけ方は大切ではないか。事業報告をみていると、工夫が必要と感じる。ここは「川中島」とすると人が呼べるが、他でどうやって「なんだろう?」「ん?」と思ってもらえるようなものを作るかだと思う。広報は工夫が必要と思うが、ブログ、フェイスブックはどうなっているか。」

(田辺補佐)「戸隠は毎日更新している。」

(倉石委員)「見て、前の内容と同じなのが一番がっかりする。」

(立岩会長)「子どもの関心は、大切だと思う。先生は何か考えはあるか。」

(倉石委員)「民俗でいうと、夏は妖怪。また、自然の上に生活が成り立っているということ。虫とかは(子どもが)好き。」

(浅倉委員)「虫は好き。」

(相澤委員)「絵本作家のかこさとしさんの自然の見方は参考になる。子どもの食いつきが違う。」

(倉石委員)「七夕にしても、ただの習俗紹介じゃなくて、畑でこの時期何がとれるか、といったことと一緒にすると子どもは食いつく。」

(田辺補佐)「今の子どもはものをつなぎあわせて考える力が弱い。博物館では物の見方を知らるのが大切だと思う。」

## (2) 中条歴史民俗資料館の移転について(細井係長)

(浅倉委員)「2点うかがいたい。1つは、1階は展示コーナーだが、2階は収蔵庫と展示を兼ねているのか。それと、『中条を紹介する展示』とあるが、今のところ、どんなことを考えているのか。テーマ展示か。」

(細井係長)「まず1点目について。1階は普段支所や公民館に来る人がふらっと立ち寄れる図書と展示のコーナーなので、中条といたらこれだ、というものを展示する。2階は、今ある資料をできるだけ残したいので、それを収蔵し、活用

するための収蔵展示室とする。2点目については、今ある資料の多くが民俗、特に近代の生業の移り変わりがわかる資料（具体的には藍など）なので、それを展示する。また、人生儀礼、婚礼・結納の際の藁製品は特徴的なので展示したい。」

(倉石委員)「残さないもの、手元に置ききれないものは、寄贈者に返却できるのか。本当にしてしまっているのか。欲しい人にあげていいのか。ひっかかる。」

(細井係長)「返却、譲渡以前に、まず、しっかりと残さなければいけないものはある。今見ると、(資料館設立)当時の村の人の考えの中で(集められたものなので)、重複しているものや、資料になりえないものがある。それも我々の価値観での判断になるので検証が必要だが、これらについて地元と話したい。検討会の委員には、設立当時にかかわった人に入ってもらえるようお願いしている。地域内に話ができる人も協力してもらえようにし、地元の方に納得していただけるように進めたい。」

(倉石委員)「今後一切博物館に協力しない、ということにならないように、気をつけてほしい。」

(千野館長)「その点は慎重に進めたい。お互い納得できるようにしたい。」

(倉石委員)「2階はケースを置くような形になるのか。」

(細井係長)「2階については、通路側をガラス張りにし、ラックに収める、といった全体が見えるような形を考えている。」

(倉石委員)「展示スペースは限られる。展示替えはするのか。」

(細井係長)「しくみを検討したい。」

(倉石委員)「ずっと同じ、ではなく、1年で替えるなど、しくみを考えてうまくやれば収蔵庫も展示になるのではないか。見せる収蔵ができる。」

### (3) 豊野資料収蔵室の整理について (細井)

質問なし

### (4) 地域との連携について (千野館長)

(立岩会長)「相澤委員、ご協力のほどお願いしたい。」

(相澤委員)「昨年のはのぼり旗を立てた。貸自転車を龍虎さんに設置した。親子での利用がある。ようやく松代と篠ノ井がつながりだした。今年は、博物館でできないことを地元でできないかと思っている。例えば、往来人物列伝、人物アニメ看板とかを作ってみたい。子どもがわくわくするようなことをしようと思っている。その中で博物館ができるところからやっていければと思う。」

(立岩会長)「今日だけでなく、連絡を密にしていきたい。」

(5) その他(千野館長)

- ・これからの展示の方向性について

(千野館長)「次回の協議会にて、意見を賜りたい。」

4 その他

5 閉会